



# 第29号

【発行】

社会福祉法人  
秋田県社会福祉事業団

〒010 - 1412  
秋田市御所野下堤五丁目1番地の1  
TEL 018-889-8360 FAX 018-889-8361  
HP <http://www.fukinoto.or.jp>  
e-mail [mail@fukinoto.or.jp](mailto:mail@fukinoto.or.jp)



秋田県点字図書館

## ～地域公益活動風景～

秋田県心身障害者コロニー



### 理事長あいさつ



社会福祉法人秋田県社会福祉事業団

理事長 熊谷 淳

いよいよ新しい年度がスタートします。気持ちもリフレッシュして、仕事に取り組んでいきたいと思えます。まず、この四月から実行段階を迎える社会福祉法人制度改革への対応です。

「チーム事業団」として、全職員が同じ目標に向かって進んでいけるような体制づくりを図るとともに、経営情報の公表はもとより、事業団の仕事ぶりを分かりやすくPRし、地域の方々から理解が得られるよう努めていきます。

また、事業団が地域から「頼りがいがある」と言われるよう、各施設において本業の福祉サービスはもとより、「福祉制度の谷間」に置かれているような方々に目を向けたサービスの提供に取り組みます。

二つ目は、より良いサービスを目指した新たな施設づくりです。

身体障害者更生訓練センターは、秋田県中央地区老人福祉総合エリア内への建設が決まり、二年後のオープンに向け、夏までには施設の青写真となる基本設計ができ、敷地の工事も始まる見通しです。重い身体障がいを持つ方々を受け入れる設備を備えるとともに、地域生活を支援するグループホームを新設するなど地域の拠点的な施設づくりを目指します。

また、障害児施設の円滑な移行を進めることとし、四月から高清水園が障害者施設に転換し、三十年代から阿桜園は児者併設に、やまばと園は障害者施設に転換することとし、必要な施設整備を今年度進める予定です。

三つ目は、自立的経営を進めるための基盤づくりです。適切な予算管理やコスト縮減に努めながら、将来の施設改築や改修などに必要となる財源を確保するため、計画的に積立金を積み立てていきます。

事業団の良き伝統を受け継ぎながら、時代の変化にいち早く対応し、今年もバージョンアップを目指します。

# 「地域における公益的な取組について」

平成二十八年四月一日に施行された改正社会福祉法において、社会福祉法人の「地域における公益的な取組」を実施する責務が規定されました。

秋田県社会福祉事業団では、平成二十四年度から東日本大震災の被災地ボランティア活動や被災地の福祉施設等への人的支援として職員派遣を実施してりましたが、平成二十七年からは社会福祉法人の使命と責務を再認識し、地域で活躍する社会福祉法人として公益的な取組を積極的に推進しています。

現在は、法人で運営する五カ所の事業所において各種取組を実施していますが、平成二十九年度に向け実施事業の拡充を検討しており、併せて、現在実施している事業内容の充実を図りたいと考えています。これら事業を長く継続していくことが真に社会福祉法人の責務を果たすことに繋がると確信し、真摯に取組んで行きたいと考えています。



## 施設の取組

### 秋田県心身障害者ヨロニー

地域で生活している障がい者を対象に「ふれあい交流会」を毎月一回開催し、参加者相互の交流を図る活動を行っています。回を重ねることに参加者同士が繋がりを築き、顔を合わせることにハイタッチしながら「元気だった?」「会いたかった」など笑顔があふれ楽しい雰囲気の中で進みます。調理教室では、元板前経験者とその腕前を發揮し、ダンス教室では子供から大人まで一緒に汗を流しています。活動中、お互いの近況や自分の過去の経験を語るなどして交流を図り、また



何よりも「楽しかった」「また参加したい」と笑顔で帰って行く姿を見送りながら、この活動の重要性を強く感じています。来年度は、由利高原鉄道の利用やヒップホップダンスなどを計画しており夢も膨らみます。そして何より「楽しかった」と笑顔のあふれる地域交流を目指していきたいと思えます。

### 高清水園

高清水園では、秋田市内にあるグループホーム利用者の交流・余暇活動の充実を支援するボウリング大会を二日間の日程で実施し、十七ホームから総勢九十一名の参加がありました。

ゲーム中にご利用者同士が交流を深め、ストライクに一喜一憂している姿に微笑まじさを感じました。終了後のアンケートでは、次回の開催と再会を楽しみにしている言葉が多く寄せられました。今後も更に交流の輪が広がっていくよう、他法人と協力しながら取り組んでまいります。



# 阿桜園

阿桜園では、地域で暮らす高齢者や障がい者等の余暇活動支援を目的に陶芸教室を実施しております。活動を始めて二年が経過しましたが、参加者の方から大変好評を得ております。制作活動中の参加者の雰囲気も良く、会話が弾み、楽しい時間を過ごしております。昨年十月には、参加者からの要望により、大仙市南外にある檜岡陶苑にて檜岡焼の手ほどきを受け、手ろくろを使つての湯呑みや皿の制作に取り組みました。みなさんは、いつもと違って緊張気味でしたが、とても趣のある作品に仕上がりました。

今後も活動内容の充実を図り、地域のみなさんに喜んでいただけるよう努めていきたいと思つていきます。



# やまばと園

当園では、家族以外の人との交流が少ない方に対して、自宅以外でも安心して過ごせる場を提供し、外に出るきっかけになればとの思いから、毎月一回交流サロン「ホップ！」を開催しています。スポーツや料理教室の他、稲庭うどん作り体験やさくらんぼ狩り、小安峡の散策など地域の社会資源も活用し、地域の良さや地域とのつながりも意識しながら毎回活動しています。参加者からは「外に出る良い機会となった」との感想もいただいております。この活動が参加される方にとって今後の生活の第一歩（ホップ！）となり、次へのステップにつながるような場を引き続き目指してまいります。



# 秋田県点字図書館

「秋田県点字図書館探検」は、小学生からの見学依頼が始まりました。探検当日は点字の歴史や点字図書館の役割を学び、アトラクションを交えて点字体験と録音体験をしていただきました。殆どの方が初めての体験で、探検中の子供はもちろん、同行の大人も熱心だったのが印象的でした。点字は知っていても読める人は限られています。きっかけは些細でも点字図書館の仕事、点字図書や録音図書を知ってもらうことで、少しでも地域住民の視覚障がいに対する理解が進み、私たちが目的とする障がい者の社会参加の一助となれば幸いです。



### 退職者からのメッセージ



秋田県社会福祉事業団事務局  
事務局長 三浦 洋

秋田県社会福祉事業団にお世話になり、気づいたら三十五年経っていました。  
特段の知識も技能もない自分が今日の卒業を無事迎えることができましたのは、諸先輩をはじめとする周囲の方々の、まさに「支援」のおかげです。この思いは年を重ねるごとに強まり、仕事を進めるうえでいかに個の力が頼りなく、上司、同僚、部下、仲間との力によるところの大きさを実感するようになってきました。ただただ感謝です。  
今後も福祉を取り巻く環境は厳しい状況が続くと思われませんが、皆様にはどうかご自愛くださるようお願い申し上げます。  
ありがとうございます。



秋田県北部老人福祉総合エリア  
所長 木越 和彦

社会人としての一步を踏み出したコロナーをはじめ、更生訓練センター、老人福祉エリア(北部、中央)と長きにわたり秋田県社会福祉事業団職員として勤務できたことは、本当に皆様のお蔭と深く感謝申し上げます。  
思い出は尽きませんが、それぞれの施設で特に係わりの深かった利用者の方々、最後の勤務地となった北部エリアでの平成十一年八月のオープンに合わせた二か月間の準備期間や営業を始めた頃の期待と不安で一杯であったことなどが懐かしく思い出されます。  
退職後は、「永遠に幸せになりましたから釣りを感じない」との古諺を言い訳に、釣り三昧な日々を送りたいと勝手に思っています。  
おわりになりますが、事業団の益々のご発展と皆様のご活躍とご健勝をご祈念申し上げます。本当にありがとうございます。



やまばと園  
園長 阿部 伸子

昭和五十二年、今から四十年前のやまばと学園勤務が私の福祉に関わる仕事の第一歩でした。それから一年半後に保育士資格を取得し、事業団職員に採用していただきました。やまばと学園当時の思い出は、四十年経過した今も、忘れられない記憶として鮮やかに残っております。その後、阿桜園、やまばと園に勤務させていただき、多くの方々との出逢いがありました。今、こうして退職の日を迎えられますのも、今までお世話になった皆様のおかげと深く感謝いたしております。事業団を退職しても、地域の応援団として、利用者の方々の幸せと職員の皆様の頑張りを見守り続けたいと思っております。  
長い間、本当にありがとうございました。



秋田県心身障害者コロナー  
開成支援課  
課長 齋藤 恵 喜

事業団に勤務して色々な方と出会うこと、様々な体験ができたことにも感謝しています。出発点である「鳥海の園」時代の思い出が走馬灯のように浮かんでいきます。私が勤務したころには、もちろんパソコンなどなく、業務は手書きが主流でありました。今では、全ての業務をパソコンで処理し、私のような者でもパソコンを使っています。まさに隔世の感があります。よくもこんなに変化の激しい時代を生き抜いて、これまで勤め上げたものだと思いがこたながら感心します。しかし、それでも変わらない大切なものは人の心であり、人と人との繋がりがだと思えます。これからは皆さんの優しさと人の和を大切に、お仕事に頑張ってください。皆さん、長い間お世話になり、本当にありがとうございました。



秋田県心身障害者コロナー  
創生支援課  
課長補佐 村上 恭 三

昭和五十年四月から秋田県心身障害者コロナー研修生として、社会福祉事業団にお世話になり、退職までの四十二年間素晴らしい環境の中で皆様の支えにより、無事この日を迎える事が出来ました。今まで出会ったすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。  
長い間ありがとうございました。そして、これからもよろしく願っています。



秋田県心身障害者コロナー  
創生支援課  
課長補佐 小笠原 弘 子

学生気分が抜けないままコロナーの研修生となり、初めての障がい者の方々との関わりは毎日とても新鮮で楽しいものでした。  
農作業や授産での作業、働き盛りの利用者の方から叱咤激励され、作業を覚え一緒に頑張ったものです。しっかりと作業ができない利用者の方からは職員として認められないため必死でした。  
それから三十数年経ち、利用者の皆さんも介護が必要な高齢者になりました。自分も年をとり、定年を迎えることとなり、長い間楽しく仕事を続けることができたのは、人に恵まれ、人に支えられたからだと思えます。  
出会ったすべての皆さんに感謝します。長い間本当にありがとうございました。  
皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



### 退職者からのメッセージ



秋田県心身障害者コロニー  
銀杏支援課  
主査 松橋 勝義

昭和五十一年十月一日付けでコロニーに採用され四十一年が過ぎました。初めてコロニーの敷地を案内された時はとにかく広い場所だと感じたことを思い出します。  
中央公園を取り囲むように、望海山荘給油所診療所事務所管理棟等諸々の施設が有りましたが、現在在存し機能している施設も有りませんが、残念ながら役目を終えてしまった施設設備も少なくありません。  
特に農林、授産関係の施設は利用者の高齢化が進み、利用者の方が利用できない状態になってしまっ止になりさみしい思いです。  
採用当時は、職員も宿舍利用が殆どであり、朝は全園フジオ体操に始まり、散歩、朝食日課、昼食、日課、夕食後の望海の丘、中央公園周辺の散歩が見られましたが、現在は外を散歩している利用者の姿を見ることは稀です。原因はコロニー利用者全体の高齢化によると思われれます。  
今後へのささやかな思い。  
一、利用者が高齢化に伴い、常勤医師が居ることにより、利用者が安心して生活ができる環境を作っていたい。  
一、静養ターミナルケアの必要な利用者へ、行動障害の利用者を混在して支援しなければならぬ生活環境の改善を願いたい。  
一、利用者を支援するのは人であり、そこには心と愛情がこもって無ければ利用者の安全で安心して生活できる環境は提供できないと思います。今後安心して、安全な環境を提供できる施設であってほしい。  
最後に関係者の皆様方に支えられ最後まで勤める事が出来ました。ありがとうございました。



阿桜園支援課  
課長補佐 菊谷 かよ子

二十五年六カ月間の勤務を振り返って、なぜか思い出すことがあります。ある利用者の方が、自分が食べた後の種から柿とブドウを育て、実を収穫したのです。初めて実生の実物を見た私は、無性に感激してしまいました。施設の生活で、道具もなく土地も痩せていて不十分だったのに、実がなるまでの数年間、丹念に育てた結果なのでしょう。単調な生活の中に、ささやかな楽しみを見出し、生きていくことのすばらしさを実現していたのです。幸せは自らの心の中にあることを教えてくれました。  
終わりに、事業団の皆様を支えられながら勤務できたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。



秋田県心身障害者コロニー  
開成支援課  
課長補佐 小木田 真

この度、無事定年を迎えることができたのは、皆様の温かいご支援のおかげと感謝いたしております。まだまだ、実感がわかないのが現実です。  
第一線を退くのは残念ですが、組織には新陳代謝が必要です。今後は、健康に気をつけ、何かしら貢献できればと思っております。  
時々ご迷惑をかけることもあろうかと思いますが、いろいろ教えていただければ幸いです。皆様の今後のご活躍を祈念し、退職のメッセージとさせていただきます。



やまばと園  
課長補佐 阿部 和子

秋田県社会福祉事業団でながきにわたり勤めさせていたことができたのは、保護者の皆様、職員の皆様などたくさんの方々を支えられたおかげであると心から感謝いたしております。ご指導、ご支援により支え続けられ、名誉ある章、平成二十八年度社会福祉功労者厚生労働大臣表彰をいただくことができました。重ね重ね感謝申し上げます。ありがとうございます。数々の思い出が、束の間の出来事のように。先達って不慮の怪我の際、互助の精神を利用者の方々より再度学び直しました。思いやりの心は大切であることを改めて感じました。事業団の益々のご発展と皆様のご活躍をお祈り申し上げます。



秋田県心身障害者コロニー  
白光支援課  
課長補佐 加賀 千賀子

春は桜観、山菜取り、夏は新緑、秋は紅葉、キノコ採り、冬は荒々しい日本海を望む雪景色。孫七山の四季を感じながら、望海の丘まで一緒に散策した利用者の方々の笑顔と笑い声が懐かしく思い出されます。  
あんな時代は、もう来ないのでしょうか。残念でなりません。この自然豊かな環境にありながら、最近では利用者の方々と散策する機会が殆ど無くなり、本当に寂しい限りです。  
若い頃は、利用者の方々と一緒にになり、怒ったり、泣いたりと全てのことに一喜一憂していました。孫七山の豊かな自然が、悲しい時や苦しい時、嫌なこと等を浄化してくれていたような気がします。  
職員の皆様が笑顔でお仕事ができますようお願いしております。長い間本当にありがとうございました。



秋田県身体障害者更生訓練センター  
主事 阿部 隼己

社会福祉事業団に就職し、訓練センターに勤めて三年が経ちました。あつと言う間の三年間でしたが、その中で様々な事を学ぶことができました。また、福祉施設で初めて働く私に対し、丁寧に指導して下さった職員の皆様、いつも元気に接してくれた利用者様のお陰で三年間続けてこれたと感じています。  
これからは、自身の目標に向かって頑張っていきます。  
今までありがとうございました。



# 「事業団職員実践発表会」及び「公開講演会」

平成二十九年一月三十日(月)、秋田拠点センターアルヴェの多目的ホールを会場に「事業団職員実践発表会」並びに「公開講演会」を開催し、一般市民の方々を含め、百三十三名の参加がありました。また、今年度の公開講演会の講師として、北海道介護福祉道場代表であり、介護老人保健施設クリアコート千歳事務次長の菊地雅洋氏をお招きしました。

平成二十八年度の事業団職員実践発表会は、県点字図書館、やまばと園、県中央地区老人福祉総合エリアの三施設から報告がありました。それぞれの施設の課題や役割を踏まえた取組みや成果等、施設の特徴を活かした実践発表会となりました。講師の菊地氏からは、三施設に共通するホスピタリティ



を意識した取組みであることや実践をまとめ、発表することの意義と継続することの大切さについて講評がありました。

公開講演会では、菊地雅洋氏から「それぞれの『生きる』を支える」対人援助職の使命と誇りと題して、介護という仕事の素晴らしさやプロフェッショナルとしての使命や誇りについて熱く語っていただきました。菊地氏のこれまでの実践と根拠に基づいた講演内容は、とても分かりやすく多くの参加者の共感を得ていました。講演の最後には、菊地氏ご自身作成の秋田の景色を織り交ぜた介護に携わる者への渾身の応援メッセージ動画が上映され、参加者の心に深く刻まれました。

## 表彰

○社会福祉功労者厚生労働大臣表彰社会福祉事業従事者  
やまばと園 課長補佐 阿部 和子

○全国社会福祉協議会会長表彰社会福祉法人・福祉施設功労  
秋田県北部老人福祉総合エリア 所 長 木越 和彦

秋田県心身障害者コロニー 管理者 小澤 久範

○全国社会福祉協議会会長表彰永年勤続功労

秋田県中央地区老人福祉総合エリア 課 長 小澤 由起子

秋田県心身障害者コロニー 課長補佐 小木田 真  
受賞おめでとうございました。

## 平成二十八年度 職員提案

提案件数 七十二件

自由部門				課題部門				自由部門	表彰	提 案 者	テ ー マ
優良賞	優良賞	優秀賞	優秀賞	優良賞	優良賞	優良賞	優秀賞	最 優 秀 賞			
事務局	秋田県南部老人福祉総合エリア	秋田県心身障害者コロニー	やまばと園	阿桜園	由利本荘地域生活支援センター	秋田県身体障害者更生訓練センター	秋田県身体障害者更生訓練センター	秋田県心身障害者コロニー	秋田県身体障害者更生訓練センター	秋田県心身障害者コロニー	事業団独自の就職説明会の実施について
課長補佐	准職員	主任	課長補佐	主 任	主 任	主 査	課 長	施設長	主 査	菊地奈緒	
大塚 聡	判田 実	細井まどか	高橋 徹	鈴木朋恵	高田里美	工藤 撰子	羽川 毅郎	小澤久範	小澤久範	小澤久範	
「障害」書の字の平仮名表記について	サイボウズのファイル管理について	外部訪問者への入館証の着用義務について	危機管理対応研修の実施について	同一事業を実施する事業所間での情報交換について	看護師スキル向上と事業団内看護師の意見交流について	相談支援専門員の質の向上及び人材育成について	法人研修「昇任者研修」(仮称)の実施	強度行動障害者のための施設入所支援サービスの実施	秋田県心身障害者コロニー	秋田県心身障害者コロニー	

たくさんの方の御応募ありがとうございました。